

絶え間なき進化。

以前は、Gクラスは「硬い」ことで知られていた。まるでコンクリートで出来たかのように硬い。そのパーツを調整しないとサマにならないことがあった。そこに教養の高さや、コーディネイトの楽しさを感じる人にこそこの2点モノをお勧めしたい。

G55AMGだろうがG550だろうが、これらのコーディネイトは清々しい。ゴテゴテと付ける前に、まずはさりげない一点モノでキメる。そうしたアプローチは簡単なようでいて、実は難易度が高い。つい、あれやこれやと手を出してしまうのが人間の性である。ホイールだって、ヴィジュアルばかりを重視したヘタな大径ホイールは、実用性を考慮した20インチだ。鈹柄はすっかりお馴染みとなった彼らの「monoART1」である。

また、これらのボディパーツはドイツ製の強靱なFRP素材が使われていて、危うさが微塵も感じられないつくりの良さを持つ。それも含めてA_R_Tの新コーディネイトは要注目である。

機 能一辺倒の、無骨極まりないスタイルが逆によかった。ソフトなイメージを持つSUVが蔓延した中で本物感がGクラスにはあった。それを巧みに引き立て都会派イメージを添えたのが、メルセデス・チューナーA_R_Tである。一步間違えれば下品になる過激なオプティカルチューンに挑戦し、一大ブームとなったのがまるで昨日のことのように語る。

今回お目見えしたのはA_R_Tのプログラムのなかでは割と控え目なGクラスだ。12灯ものライトを使ったフロントマスクに強烈な印象を持つ者にとっては物足りない向きもあるだろう。が、これこそ彼らの本領発揮である。取り入れられたボディパーツは、新作だというフロントスゴイラーと、そしてAMG純正とはひと味違う幅広い感をもたらすオーバーフェンダーのみ。ただそれだけ。それだけで無骨な印象の強いGクラスの世界観を、巧みに都会派へと導いていた。



A_R_TのGクラスにとって久々の新作となったフロントバンパー。LEDの使い方も絶妙でメーカー純正さながらの落ち着きを持つ。また、リヤにはA_R_T製パーツは装着されないが、AMGとはひと味違うオーバーフェンダーが独特の存在感を放つ。

Equipment:
 フロントスゴイラー 29万8000円
 オーバーフェンダー 26万円
 monoART1 16万円

A_R_T G-class

TEXT ■ 中三川大地 (Daichi Nakamigawa) PHOTO ■ 山本佳吾 (Keigo Yamamoto)

DOMESTIC POWER!! 2 優雅に華麗に遊ぶ。

メルセデス・チューナーとして名を馳せたA_R_Tの注目プログラムがランクルだ。今まで日本のクワカン文化に置かれてきたランクルに対する、A_R_T流のアプローチ。それは実に新鮮で、魅力的なアイデアだった。

メルセデス・チューナーとして広く認知されるA_R_T。創業者にしてデザイナーでもあるイムレイ・アルパ氏の感性で、A_R_T流の美学をトコトン追究してきた。数年前からそこに加わった新プログラムがレクサスだった。そして、Gクラスという無骨なSUVカスタマイズで名を馳せたA_R_Tが、やっぱり見逃さなかった、というのがこのランクルのプログラムである。

ズは、しかしGクラスほど押し出しの強いものではなく、実にエレガントで、ヨーロッパ・テイストあふれるものである。シンプルを構成の前後スポイラーに、マシクレスのスポーツグリル、A_R_Tの代表作となったホイール「monoART1」の22インチなど、どこを取ってもソツのないつくりを持つ。

ホイールはカスタムオーダープランによってボディ同色のブラックにペイントされる。統一された色合いのボディパーツを始め、こうして真つ黒なランクルができた。各マテリアルを見るとエレガントだったはずが、黒一色に染まるとどうだろう。まるでランクルの本質を捉えたかのような機能的な装いになる。今回は、特注で製作したという「トレーラー」を引いていたから、そんな印象はより強く伝わってきた。ランクルを筆頭とする日本の「クワカン」文化とアウトドアは、切っても切り離せないもの。海へ山へと繰り出すのに最高の相棒となることは間違いない。そうした楽しみ方をするにあたって、A_R_T流のランクルは悪くない。旧来からのクワカンカスタマイズとは180度印象が異なる、クールな雰囲気である。

加えてA_R_Tのボディパーツ類は、ドイツ製のぶ厚いFRPが使われ、頑丈なつくりを持つ。ホイールにしても、耐荷重に優れるのももちろん防錆性能も抜群だ。日本主産の迅速な供給体制も手伝い、ランクル・カスタマイズに新風を感じさせよう。

PARTS LIST	
フロントスゴイラー	10万8000円
リヤスカート	12万1800円
ルーフスゴイラー	15万5400円
スポーツグリル	8万1900円
エキゾーストシステム	28万3500円
monoART1 (F&R22x10.5J)	14万7000円
monoART1 (19x8.5J ※トレーラー装着)	7万8700円



① いかににも頑丈そうなフロントスゴイラーにはさりげなくLEDが埋め込まれる。② ホイールはA_R_Tの定番ともなった「monoART1」。下写真にあるように牽引するトレーラーにも同規格が装着されていた。車間は22インチ、トレーラーは19インチとなる。トレーラーのほうは取り付け部分を特注で製作して取付はめたという特注品だ。

A_R_T LAND CRUISER

TEXT ■ 中三川大地 (Daichi Nakamigawa)
 PHOTO ■ 山本佳吾 (Keigo Yamamoto)



トレーラーを牽引するスタイルが出来るのはランクルならでも。今まで目一杯アンメイクでこうした気遣いはお目に見られなかった。そうした意味でも新鮮だ。

